

2019年度事業計画総括

放射線技術学は、医学、工学、物理学、数学などの多くの境界領域の学問と融合して発展を続けており、医学、医学物理学や理工学等の幅広い分野での会員の連携による学際化をさらに推進するとともに新しい放射線技術学の創成を通して社会に貢献する学会となるよう会務運営に努めたい。

総会学術大会の英語化については、引き続き Cypos と発表スライドの完全英語化を実施し、昨年度は英語口述発表について約 53%を達成することができた。今年度も総会学術大会の英語化を維持する。また、2020 年度の第 76 回総会学術大会において日本医学物理学会との合同英語セッションを開催するために両学会合同のプログラム委員会を立ち上げて準備を進める。

国際的な学術連携としては、中華医学会影像技術学会（中国）、大韓放射線科学会（韓国）、タイ医学物理学会（タイ）、中華民国医事放射学会（台湾）と引き続き連携・交流を進める。また、第 4 回 ICRST を第 47 回秋季学術大会に併催する。外務省や国際協力機構などの後援を得て進めているミャンマー教育支援事業については、2018 年度に引き続き現地大学の教員の教育を目的に 2019 年 11 月に現地にてワークショップを開催する。

2014 年 2 月の将来構想特別委員会の答申に基づき設置した学会事業評価委員会により引き続き本学会の自己評価を行い、各事業にフィードバックしていく。また、学会を取り巻く環境の変化に対応すべく、企画委員会のもとに中期計画検討小委員会を設置して 10 年スパンの将来構想の答申の軌道修正を行う。

国内の関連団体との学術連携についても日本循環器学会ならびに日本放射線看護学会と連携・交流を進める。また、引き続き教育プログラムとして e-learning を充実させ、すべての会員へ還元する。会員の皆さまの一層のご理解とご支援をお願いする次第である。

以下に、2019 年度事業計画の総括を述べる。

1. 学術集会事業；公1

1) 学術大会の開催

(1) 総会学術大会の開催

第 75 回総会学術大会を 2019 年 4 月 11 日（木）～14 日（日）の 4 日間、石田隆行大会長のもと、パシフィコ横浜会議センター他で日本ラジオロジー協会（JRC）の運営により第 78 回日本医学放射線学会総会、第 117 回日本医学物理学会学術大会ならびに 2019 国際医用画像総合展との併催で開催する。

また、第 76 回総会学術大会を奥田保男大会長のもと、2020 年 4 月の開催（パシフィコ横浜会議センター 他）に向け準備を進める。

(2) 秋季学術大会の開催

第 47 回秋季学術大会を 2019 年 10 月 17 日（木）～19 日（土）の 3 日間、福西康修大会長のもと、大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）（大阪市）において JRC の協賛を得て開催する。

(3) セミナー・研修会の開催

教育委員会が主催、専門部会ならびに地方支部が共催で 15 のセミナー・研修会を延 22 回開催する。

(4) 専門部会プログラムの開催

7 つの専門部会が各専門分野に特化した独自の企画で春秋の学術大会にジョイントして専門部会プログラムを開催し、トレンドな技術情報をタイムリーに発信する。

(5) 地方支部における学術大会、セミナー等の開催

各地方支部において地域に根ざした支部独自の企画で、春もしくは秋に学術大会ならびにフォーラムやセミナーなどを開催する。また、地方支部と学術委員会、教育委員会、専門部会が協力してセミナー、研修会等を実施して地域における学術活動を活性化させる。

(6) 市民公開シンポジウム・市民公開講座等の開催

公益法人としての事業の一環であり、本学会の学術領域を社会に広報する目的で今年度は 3 回（京都市、島根市、東京都）開催する。

2. 刊行広報事業；公2

1) 学会誌関連

学会誌第75巻第1号～第75巻第12号の12冊を毎月20日に定期発刊する。その中で論文特集号(第75巻11号)も組み込む。学術研究発表から論文化への推進を行い投稿論文の増加推進に努める。電子ジャーナルの発行を行う。引き続き学会雑誌の電子化(冊子体の廃止)について継続して検討する。また、最新の用語集を維持する。

2) 英語論文誌関連

第12巻1号を2019年3月20日、第12巻2号を2019年6月20日、第12巻3号を2019年9月20日、第12巻4号を2019年12月20日に電子ジャーナルおよび冊子体を発刊する予定で、会員の積極的な投稿を喚起する。第75回総会学術大会で、日本医学物理学会との合同企画ならびに土井賞、Most Citation Awardの表彰式ならびに土井賞の受賞者講演を開催する。

3) 出版活動

放射線医療技術学叢書(27)の英語版の電子出版を行う。叢書(14-4)の増刷を行う。また、放射線技術学教育関連図書の発刊ならびに発刊作業を進めるとともに既出版物の販売促進を図る。

4) 支部雑誌の発行

各支部において支部雑誌を1回～3回発行する。(電子ジャーナルを含む)

5) 部会誌の発行

各部会において部会誌を電子ジャーナルで2回発行する。

6) 広報活動

学会事業ならびに放射線技術学に関係する専門分野の研究動向などを、市民公開シンポジウムや市民公開講座などの開催、ホームページへの掲載ならびにメールマガジンの配信を通じてを一般市民含めて学会内外に広報する。

3. 研究調査事業；公3

学術研究班(16班)による学術研究を行う。動画コンテンツを推進してe-Learningの充実ならびに定着化を図る。また、学術大会において専門部会講座入門編と専門部会講座専門編ならびに第75回総会学術大会ならびに第47回秋季学術大会において教育的講座を開催する。

4. 研究奨励事業；公4

規定に基づき、三賞、学術業績賞、研究奨励賞等の選考・推薦・表彰ならびに関係省庁、関連団体被表彰者の推薦を行う。また、北海道支部、東北支部、関東支部、東京支部、中部支部、中国・四国支部、九州支部において表彰もしくは研究奨励を目的に助成を行う。

5. 連携交流事業；公5

1) 国内

(1) 関連学協会および関連団体と積極的な交流を図るとともに共同による企画などの立案を行う。放射線技術に関する関係法令に関して関連省庁や放射線審議会等から情報を収集し、整理して会員等への情報提供ならびに法整備のためのエビデンスとガイドラインを作成する。関係省庁、日本画像医療システム工業会(JIRA)および関連学会と協力してIECと整合をもったJIS化作業を行い、その普及活動を積極的に行う。標準化にかかわる規格・コード・ガイドラインなどについて関連団体と協議、策定および普及に努める。放射線防護に関しては医療被ばく研究情報ネットワークに参画し、関連学会等と連携して診断参考レベルの検討、普及に努める。医療安全についても関連団体と連携して具体的に取り組んで行くとともに会員等への情報発信をおこなう。

(2) JRC理事会に役員を派遣し、学術大会の開催企画に参画する。

(3) 関係省庁、教育機関、関連学協会との一層の連携を図っていく。

- (4) 日本診療放射線技師会と共催にて平成 30 年度 JSRT-JART 合同市民公開講座（第 13 回公開合同学術セミナー）を 8 月 24 日に岡山にて開催する。

2) 海外

東アジアならびに東南アジア地域における関連学会との国際交流においては、本学会学問領域に近い学術団体と学术交流の締結を積極的に推進する。特に、中華医学会影像技術学会、大韓放射線科学会、タイ医学物理学会、中華民国医事放射学会との学术交流関係を継続する。また、双方の学会での研究発表を促進し、一般会員相互の交流がさらに発展するよう努力する。また、海外短期留学生の派遣、国際研究集会への派遣等の助成事業を継続して行う。